

会報九月号 世界観を掴む(その四)

目次

- ・ 守破離
- ・ 「守」↳根本原理(陰陽相補原理)
- ・ 陰陽相補原理の特徴とその敷衍
- ・ 「破」↳陰陽相補原理の応用・展開
- ・ 「破」の一例メモ
- ・ 宇宙の実相

今回は、陰陽相補原理の応用展開という「破」の段階の一例メモである。原理の理解を深める一助として、気楽に眺めてくれればと思う。

● 守破離

会得すべきは「守」である。「守」とは、躰や修身、学問、様々な修養修行、そこにある型を通して、宇宙の秩序や生命の原理を身につけることである。

「破」とは、身につけた秩序や原理を、自分なりに応用展開して実生活を築いていくことである。環境を利用し状況に応じるために、「守」の段階で身につけた型を破っていくことも大切であり、原理や型をどう応用展開していくかは、ひとりひとりの腕の見せ所である。本当に楽しくなってくるのはここからである。

実生活を築いていくというのは、己の志や信念や愛を断行し、その具現化を図っていくことである。行き詰まったら「守」に戻る。そして、基本や型に創意工夫を加えて再挑戦していく。言い換えれば「守」というのは、再挑戦の足場である。その足場が盤石であればあるほど、高い飛躍が期待できる。

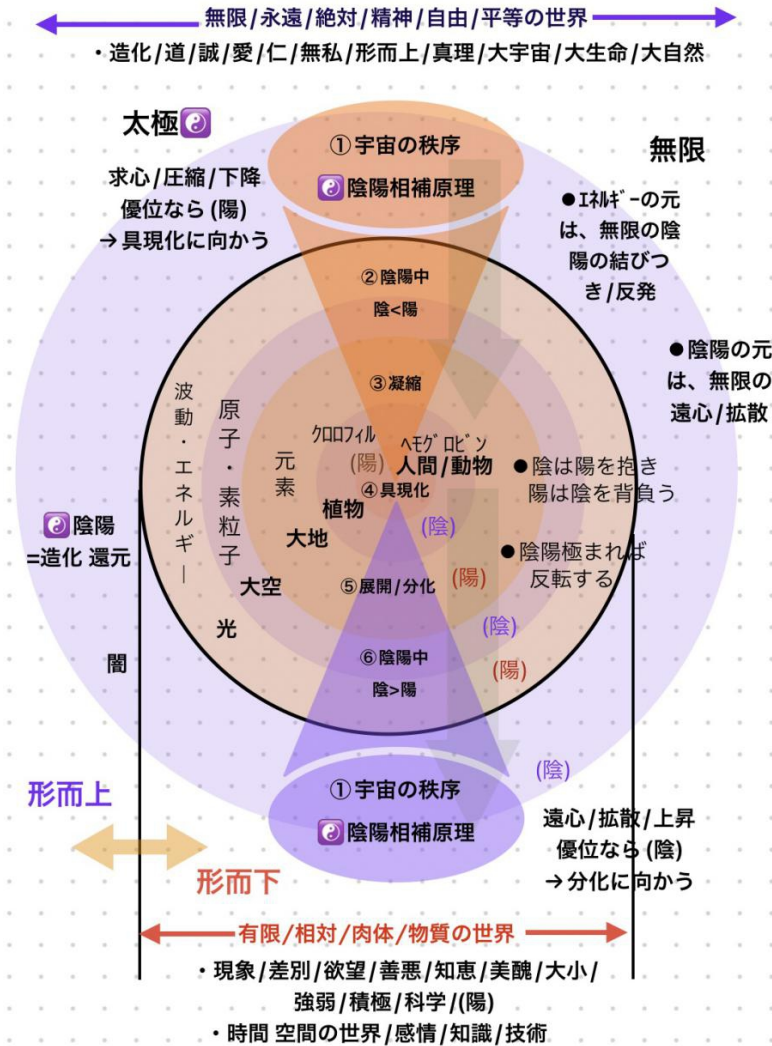
やがて、独自の境地を拓き、次世代へ「守」を引き渡し、自分以外の何ものかの為に命を燃焼させ尽くす。それが「離」である。

● 「守」↳根本原理(陰陽相補原理)

四書の一つである「大学」に「天子より以て庶人に至るまで、一に是れ皆身を修むるを以て本と為す(あらゆる人にとって、我が身を整えて生活に秩序をもたらすことが物事を成し遂げていく根本である)」と説かれるように、前に進む為、高く飛躍す

【万物万象は陰陽秩序の展開である】

陰陽は互いに牽引推進する



有限は無限の一部である

る為には、まず「修身」である。「修身」とは、この世の構造と秩序（宇宙の秩序や生命の原理である陰陽相補原理）を会得して、自らの生活に秩序をもたらすことである。秩序を身につけずに幼少期を過ごす、思考や態度、行動に根本的原理が見出せず、好き嫌いや損得だけが基準となりやすく、己の道を貫くことは容易ではない。秩序や根本原理、即ち「本（もと）」を培うことが肝要である。

● 「破」↳ 陰陽相補原理の応用・展開

自らがその秩序・原理を応用・展開させて形にして、実生活を築いていく段階である。その為には、曖昧なもの、散らかった思考を秩序や原理に則って結晶化させていく強力な求心力、凝縮力、持続力が必要になる。これらの力を育むのに、何か特別な魔法があるわけではない。力の母体は、秩序ある日常生活である。その始まりは「早起き」の習慣であり、その終わりは「自反・自省」である。やがて、独自の境地を拓いていく「離」の段階へと歩みを進めるのである。それは、自分以外の何ものかの為に自己の命を捧げ尽くすという愛や信念の断行・具現化である。

- （守） 陰陽相補原理の世界観を持ち、生活に秩序をもたらす。
- （破） 陰陽相補原理を応用展開し、実生活を築いていく。
- （離） 独自の境地を拓き、次世代に原理を伝え、生命を燃焼し尽くす。

●「破」の一例メモ

陰陽相補原理から理解するために、物事を陰陽から見て説明を試みる。世の中や人生を、因果律ではなく陰陽相補原理で見るということは、物事を「固定」ではなく「変化」で、「分析」で終わるのではなく「統合・統一」へとという流れで捉えることである。そもそも、思考を実現したり、問題を解決しようとする頭の使い方そのものが、宇宙の秩序・陰陽相補原理になっている。原理であり道であるというからには、それは我々の心でなくてはならないし、世界観でなくてはならないし、何より、我々の日々の生活経験になっているはずである。

・精神、魂は全体を知るもの↓陰陽相対原理の構造では、精神や魂は無限界そのものであるから、いつ如何なる場所にも存在する。有限界は無限界の一部であるから、精神や魂が有限界の全てに及ぶのは当然である。

・「我思う、故に我在り」か、それとも「我在り、故に我思う」か↓精神は無限界そのものであり、魂とは無限界（宇宙）の意志（造化、愛、勇知仁、誠の断行・具現化）である。人間の魂とは無限界の意志（魂）の分霊である。精神・魂とは無限界そのものであり、いつ如何なるところにも在るのだから、過去でも未来でも何処でも観る。ここで「観る」とは「思う」と言い換えてよい。「我思う」の「我」は、無限・大宇宙・大自然そのもの。有限界の肉体を纏った「我」ではない。その点から言えば、「神思う、故に我在り」と言い換えた方がよい。

・アイデアや発明↓古来より問題解決のアイデアや画期的な発明は、限界までの努力の後の「無心」から訪れる。知識からではない。そもそも知識というのは、有限界の狭い経験のごく一部分であり、無限界と比較できるものではない。無心である時は、有限界の一切の束縛から解放されて広大無辺の無限界という精神・魂の世界に遊んでいる時であり、無限界は全体を見る世界なのだから、有限界の問題を高所から見ることができ、解決法の糸口を見つけやすいとも言える。達人も道の悟りも同じことで、この境地を心身解脱とも呼ぶ。

・対話の形↓ソクラテスやプラトンや釈迦が対話形式を取ったのは、「問いと答え」という陰と陽を交互に働かせることが問題解決の方法では、宇宙の秩序・構造に法形式だからである。結局のところ、有限界のことは、無限界である大宇宙の構造・法則の模倣であるとする。

・意志の自由↓意志の自由とは精神の自由のことである。そもそも精神は無限なのだから、自由であるのは当然である。しかし、この社会という有限界において無限（自由）があると思うのは、考え違いをしている。有限界は有限なのだから、そこに自由（無限）は存在し得ない。

・戦争↓生命論から言っても、「戦い」そのものは生命の本質の一つであり、それは善悪という人間の判断を入れる余地は無い。判断できるのは「戦いそのもの」の善悪ではなく、「戦い方」についての善悪である。しかし、「戦争」は多くの人が殺し合

うのだから、人間にとって悪であるという見方は正しい。

↓生命論からではなく、陰陽相補原理から観るとどうか。有限界は陰陽の秩序のうねりて進んでいくから、その意味では戦争は陰陽の一つの現れである。従って、戦いは陰陽のあるところ必ず現れる現象である。また、「戦争」が無ければ平和も無い。陰と陽が接するところ、その性が陰陽は相反するが故に初めは相引き、後には相克と闘争が起きる。しかし、相克と闘争のところには躍進と創造がある。戦争を善とみるか悪とみるかは立場や見方による。戦争も平和も善も悪も、有限界・相対界のものであるから、善悪はその立場によるのである。無限界・絶対界から見れば、戦争は有限界、人間界のさざ波の一つであり、そのさざ波の山か谷を見ると、それは善悪の区別となる。「戦争は文化の母体である」という見方も有限界・相対界からの見方である。

・生きることは戦いである↓陰陽の交感消長を「戦い」と見るなら、それは事実である。が、有限界の判断であるから「気の弱い人への励ましになれば儲けもの」程度の価値しかない。しかし、その励ましは、度が過ぎれば絶望を与えることにもなりかねない。

・個性と魂↓個人の性格・気質・好き嫌い・得意不得意・特徴・体質のようなものを「個性」と言うなら、それは無数にある。これは換言すれば、有限界に無数にある小さい部分の組み合わせで構築されるものである。しかし、有限界のものであるから、やがては消えていくものである。では、個性を永遠なるものにするにはどうするか。獨創性を与えればよい。獨創性というのは、精神・魂・無限・絶対・自由を裏付けした個性であるから。「魂」も、個人のものを意味するとすれば、個人は有限界のものだから、その個人が死ねば一緒に消滅する。魂を無限界のものとするなら、それは無限なのだから唯一のものであり、絶対であり、精神・無限・真理・大宇宙・大生命そのものであって、個人のものとは言えない。強いて言うなら、個人の魂とは魂の本体の分霊である。

・医学は進歩したのになぜ人間はもっと健康にならないのか？↓医学の進歩は有限界、物質界の探究を専ら目的とした進歩だから、無限界・精神の世界からは却って遠ざかる。人間は、肉体（有限）と精神（無限）が融合した存在である。片方だけではない。・帰依服従なければ統一なし↓絶対なものに対する帰依や服従が無ければ統一はあり得ない。現在の世界情勢は、絶対なるものへの帰依や服従を重視せずに、個人の自由を建前としてしまっている。一つの軍隊にしても命令への服従が無ければ、統一した組織体として機能することはできない。有限の陽の世界の統一は、無限の絶対の陰の世界への帰依が無ければ成り立たない。力による統一は有限界の中でのみ、しかも一時的にしか成立しない。だから、個人主義や自由主義で調和統一を図ることは難しい。まして、個人の中に宇宙の秩序や根本原理を自覚していなければ、好き嫌いや損得がその人の判断基準となってしまう。その上に成り立つ消費社会や物質文明は早晚崩壊する。

・正義は力か？↓「正義は力、力は正義」と言うのは有限界だけで通用する正義であ

る。しかし、正義が弱かったら話にならない。正義は強く在るべきである。正義は精神にあるのだから陰性で何の力もないが、天地の秩序であるから、これがたゞ陽性の有限界に現れると必ず力になる。力の裏付けが正義には必要である。

・正義とは何か↓正義とは無限界（大宇宙・大自然の秩序や摂理、絶対、相補、愛、誠）を、我々の有限界に展開・断行・具現化することである。

・時間と空間↓時間とは無限の繋がりで、空間とは無限の広がり。いずれも無限であるから、無限界・精神の世界・絶対の世界の呼び名に過ぎず、時間と空間は別のものではない。それを別なように思うのは、有限界だけに生きていると誤認している人間が、有限な自分の「生き身」をモノサシとして空間や時間を認識しようとするからである。肉体・物質は有限だから、それで物事を測ろうとする限り、時間も空間も有限となる。空間が縦横高さの三次元に見えるのは、三次元の肉体でそれを測るからである。時間が一次元（一方通行）に見えるのは一次元の生命寿命でそれを測るからである。空間も時間も、この有限の肉体で測るのではなく、無限の精神で測れば無限となる。そしてそこには、過去も未来も現在も区別はないこともわかる。

・物質、質量、エネルギーとは何か↓無限界、精神、神の世界の不断の創造である。この三者は同じものであり、無限・無尽蔵であり、従って不断に滅し、不断に生まれ、不断に増大し、不断に減少する。それは不断の変化という大きな流れである。私たちはその流れのごく一部しか見えていない。そして、その流れの中で流されているのだから、不増不減不変不滅にも見えてしまう（質量保存の法則）。

・人生を築いていくには、積極的に当事者となって、凡ゆる喜怒哀楽・艱難辛苦・利害得失・栄枯盛衰を舐め尽くすことである。第三者として外にいてはいけない↓「造化の道に位育参贊」「踊る阿呆に見る阿呆 同じ阿呆なら踊らにゃ損損」。ひとりひよりは無限の宇宙の中心にいる。主体的・創造的に実生活を築いていくこと。

・無限と有限の関係性は？↓全体と部分である。無限が有限の母。陰が陽の母。陽として具現化されるということは、陰に支えられていることに他ならない。見えないものに支えられていることを忘れてはいけない。精神（無限・自由）を具現化（有限・現象・物質）にするには、非常に強い陽の力（求心力）で精神を凝縮させ続ける必要がある。・宇宙の力↓弱い力が強い力に飲み込まれるのは、有限界・物質界に於いては正しい。しかし、この陽性の有限・物質・現象界を生み出すのは、陰性の無限界・精神界であることを忘れてはいけない。有限界は無限界の一部分に過ぎない。

・戦い↓まず（陽）が勝つ。しかし、結局は（陰）が勝つ。（陽）は（陰）から生まれるから。↓陽は陰の一部に過ぎない。

・虐めないと花は咲かない↓植物も風に当てたり水を不足させたりして虐めないと、花や実をつけない。ゾウリムシ等も刺激のない所に置くと分裂生殖をやめてしまう。陰性の穏やかさ・静けさばかりで、陽性の苦しみが無いと「陰陽中」とならず、生命は躍動しない。

・光やエネルギーの正体↓波や粒子など物質的・現象的・有限的なものを想像するの

は唯物的偏見である。唯物論と唯心論の二元を超えたところに入らなくては分からない。

・冬の寒さと夏の暑さ↓冬は寒く、夏は暑いのが良い。冬の(陰)も夏の(陽)も気候風土から十分に与えられることになるから。当然限度はあるが。

・文明と自殺↓陽性の文明は、衣食住 生活一般が陽性過多となり、陰性でなくてはならない人間の頭脳が悩まされるから↓陽極まりて陰生ずる。

・戦争時は糖尿病と盲腸炎が減る↓美食飽食をしなくなるから。陽性過多から来る盲腸炎と、陰性過多から来る糖尿病が、共に戦争の労働増大という陽性現象が陽性食過多を無害にし、陰性食過多を相殺する。

・なぜジャンクフードが食べたくなるのか↓カリウム(陰)不足、ストレス耐性が弱い↓陰性・意志が弱い・太っている人間になっていく。

・意志の強弱↓体を動かして汗をかけば、それだけ体は水分が少なくなつて陽性になっていく。陽性(求心力↓遠心力)になると意志は強くなる。水分と甘いものの摂り過ぎ(求心力↑遠心力)は意志を弱くする。

・なぜ水よりお湯の方が先に凍ることがあるのか(ムペンバ効果)↓陰性である冷凍庫内の冷気を常温の水より多く引き寄せることができるとお湯(陽)のほうが、完全に凍るのは早くなることがある↓陰は陽を惹きつける。

・神(宇宙の秩序・生命の原理)は我々の外にあり、かつ内にある↓図の通り。内は外の一部である。風呂の湯ぶねの中にスポンジを入れる。お湯はスポンジの外にあり、かつ内にある。それと同じである。

・力のもととは何か?↓陰陽の結び付きと、陰陰・陽陽の反発。

・陰陽のもととは何か?↓無限の遠心・拡散。だから最初は闇。そこから拡散されたもの同士がぶつかつて光(陽)となり闇を破った。

・何事にも陰陽両面がある↓何事にも良いと評価がされる側面がある!↓積極的になれ!悪いと評価される部分だけを見ては物事は始まらない。

・器量と機鋒↓陰と陽そのもの。陰が大きければ陽も大きい↓「中(進歩発展)」へと進むことができる。

・なぜ仕事の要素が「規律、命令、服従、献身」となるのか?↓仕事は(陽)。プライベートは(陰)。(陽)とは(陰)からの展開である。人間社会において仕事とは、生活を前進させるものであり、社会の進運を助けるもの。(陽)は(陰)に支えられている。それが宇宙の秩序であり構造である。それに則り活動することが最も道に合う。

規律とは宇宙の秩序。命令とはその秩序の自覚。服従とは秩序に順なること。その結果、道への献身となる。宇宙の秩序に適い、人類が前進する。

・一度に一つずつ行う↓全てを変わり始める。

・なぜ成功や長所より、失敗や欠陥を指摘する人が多いのか?↓失敗・間違いを批判するのは、「自分は失敗を批判し、成功を肯定しない」という内面の欠陥を晒しただけである↓陰陽相補原理から見ると、成功は(陽)、失敗は(陰)。(陰)は(陽)の外側にあ

るので目につきやすいから。

・なぜ恋の至極は忍ぶ恋なのか？↓素直に伝えることができる気持ちは、川のように流れるから息は詰まらないが、伝えられない気持ちは体の中で暴れ回って呼吸を乱す。深呼吸できる時とできない時を比べると、できない時の方が苦しいが心臓は運動している。運動には生命を輝かせる力がある。好きだとバレたら死ぬつもりで生活している、すぐに体がストレスを感じ始める。伝えられない不自由な気持ちは体の中を暴れ回る↓生命の力が蓄えられ躍動を始める↓「極まれれば反転する。(陰)極まれれば(陽)生ずる」。普遍的なことは「変化」である。最初の変化は？

・しつかりさせるには組織化する↓カッパル、家族、仲間、会社、国…。陰陽は、どちらか単独だけでは存在継続し得ない。二者以上が集まればそこに秩序や調和が生じる。その具現化の形の一つが組織化である。

・謙虚さと傲慢との使い分けは？↓謙虚(陰)と傲慢(陽)は両方あって良い。「神仏を敬し、神仏に頼らず(宮本武蔵)」。宇宙の秩序・生命の原理に対しては畏れ敬い謙虚であり、この無限を有限に作り変える時は、積極的傲慢に自分が前に立って、気違い死狂いで断行しなければ、なかなか具現化できるものではない↓「本気にて大業は成らず。気違いにて死狂いするまでなり。」

・なぜエントロピーは増大するのか？↓(陽)より(陰)が大きければ・強ければ、拡散(陰)に向かう(エントロピーの増大)だけのこと。根本的には(陰)から(陽)が生じるので、(陰)が(陽)よりやや多い。従って、人為が加わらなければエントロピーが増大していくのは必然である。エントロピーがあまり増大せずに均衡を保っている状態が生命。生命は(陽)が(陰)よりやや優勢である。

・思考の発展↓例えばマインドマップの様に思考を四方八方に伸ばしていくというのは、ただ拡散(陰)に向かうだけに終わることもある。物事を具現化するには、思考を凝縮(陽)しなければならない。思考の発展とは、拡散と凝縮を繰り返しながら、その時その時の落とし所で具現化しなければ、ただ拡散して終わる。

・植物の種の中はどうなってる？↓双葉と根が乾燥した状態(陽)で入っている。外からの水(陰)によって膨らみ、種の殻を破って出てくる↓(陽)は(陰)によって大きくなる。

・極める↓ダラダラ(陰)を極める↓それが反転したらどうなるか。坤為地☷↓乾為天☰になるように反転していくかもしれない。

・穏やかで誠実(陰)がよいのか？↓相手による。相手によっては強かに蛇のように接する事で、平和を維持できることもある。どちらが善か悪かではない。どちらも調和に向かう一つの態度に過ぎない。

・「足るを知れ」と言うが、満足したら成長は止まってしまうのでは？↓満足(陰)と成長(陽)は対立的であると同時に相補的である。足るを知ること余裕ができ、自己反省や自己理解を深め、次への目標を掲げ成長が促される。

・陽大きければ陰もまた大きい↓「人は結局死ぬ」という自覚が出れば、生への価値

が高まる。しかし、死への不安や恐怖も高まってしまふこともある。

・ゆで卵(陽)を回転させると遠心力(陰)がはたらくから立ち上がる。生卵(陰)は回転させても(陰)、立ち上がらない。

・孤独は心を強く確固たるものにしてくれる(陽)が、心を腐らせてしまふ(陰)こともある。団体戦も個人戦も共に必要である。一つの物事には必ず陰陽両面がある。どちらを選択するか。その選択の連続が道である。

・「月に叢雲 花に風」↓陽あれば必ず陰あり。

・冬(陰)から春(陽)に移り変わるのも、一足飛びに変わるのではない。春が来た!と思っていると、また寒さがぶり返す(三寒四温)。毎日少しずつ暖かくなるのではなく、何度も陰陽陰陽と繰り返し波を打つようにして、いつの間にか春になっている。桜はそれを知っていて、うかつに気を許すことはない。

・人間の性命は自分以外の何ものかの為に使ってこそ輝く↓陰陽中

・握手という挨拶↓強すぎる握手は隠し事のサイン。

・事業↓集中(陽)は富を築き、多様化(陰)はそれを維持する。陰陽どちらも大事である。

・戦う↓戦うときは(陽)、腹いっぱい(陽)食べてはダメ。陽極まり反転して陰生ず。即ち気持ちどこか緩んでしまふ(陰)。もちろん、陰が極まった状態では戦えない(腹が減っては戦はできぬ)が、適度な範囲で欠乏感(陰)を保つことが大切。ハングリ―精神であってこそ戦える。

・悪に対抗するのは善ではなく、別の強大な悪が有効であることも多い。

・いい人と悪い人↓人間は陰陽併せ持つ。良い部分も悪い部分もある。どちらかだけを見て「あの人はいい人、悪い人」と決めつけてしまつては、後でその反対の面を見せられた時に「裏切られた」と感じて馬鹿を見ることになる。

・攻撃だけではダメ。受けだけでもダメ。攻守はセットである。そして、攻撃は即ち受けとなり、受けは即ち攻撃となる。攻守一体。攻撃の中に受けがあり、受けの中に攻撃がある。

以上は、陰陽相補原理の応用展開の一例である。

●宇宙の実相

陰陽の対立構造は、「対立」というより「相補」である。だから、「中(進歩・発展・成長)」へと向かえるのである。

陰陽相補原理という相反する二つ(以上)の相補のはたらき(陰陽)によって、物事は活動・生成・変化・消滅を繰り返していく。これが宇宙の実相であり、物事の根本原理である。仁義や忠孝は、この中に自ずから包含されている。

今月も健康と健闘を。